

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300262		
法人名	株式会社ニーノコーポレーション		
事業所名	グループホームはなえくぼ扶桑		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森辻田398		
自己評価作成日	令和7年9月29日	評価結果市町村受理日	令和8年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2375300262-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2375300262-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和7年10月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人にそれぞれのできることをやっていただくことで、毎日を前向きな気持ちで過ごしていただけるように支援しています  
 認知症と認知症の人を理解し、親切な対応で心配事を解消することで、利用者様に安心して生活していただけるようにしています

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員が楽しく仕事のできる職場を目指し、職場環境整備に取り組んでいる。職員自身が主体性を持ち、どうしたら働きやすいかを職員同士が話し合い、決定している。この1年、職員の離職無しの実績からも、取組の成果がうかがえる。今年度補助金対象となった、生産性向上委員会、業務改善委員会等も、職員のやる気スイッチとなっている。ホームの短期目標策定は、日常業務の課題を前向きに表し、改善に向けてできることから少しずつ取り組む、「働きやすさ」を追求している。  
 今年度の訪問調査日はホームのハロウィンイベントと重なり、職員はそれぞれに仮装を凝らし、利用者を楽しませている様子を見ることができた。職員が楽しめる環境を垣間見れる視察であった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて社長や管理者より理念共有があったり、事業所内の目につくところにも貼ってあるため目にする機会も多く、常に理念を意識して取り組んでいる	管理者は、理念からぶれない信念を持ち、職員に対し、理念に沿った考え方の浸透を図っている。ホームの短期目標(3ヶ月)を策定し、検証後に次の目標を考える体制が確立している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板が回ったり、地域行事へのお誘いの手紙が届く。散歩時のあいさつや、時々近所の方が声をかけに来て下さる。	隣の保育園の園児との交流は日常的で、挨拶と言葉掛けを楽しむ関係にある。近所からは、野菜やおやつの差し入れがあり、その方に春秋のお彼岸におはぎをお返りする、個人的なお付き合いも続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している施設の便り内で認知症ケアについて書いており、ご家族に送ったり、事業所入り口に設置し来設者に読んでいただけるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの日常の様子や行事の様子等を、写真を使って報告し話し合いを行うことができている	年6回の会議を開催している。1時間程度の会議で、情報交換等は、お茶を飲みながらの雑談で行っている。ホームの運営報告、行事報告、ヒヤリハット事例、研修報告等、必要時には写真を使い、詳しく報告している。聞き取った内容は、ホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査の際に町の担当者にホームの状況等を話している。また、制度上の確認などがあれば、すぐに確認するようにしている。	行政担当部署とは、ホーム運営に係わる報告・相談を通じ、適切に連携している。行政担当者、地域包括支援センター双方が運営推進会議に参加し、ホームの実情理解を進めている。包括主催の施設紹介の会参加、研修会参加等で、具体的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一度、代表者と各事業所の管理者で、身体拘束適正化に関する検討会を実施、その内容を事業所に持ち帰り、職員に周知している。また研修を通じて、継続的に身体拘束につながらないケアについて話し合っている。	2ヶ月毎に委員会を実施し、職員に対しては、ミーティングで周知を図っている。身体拘束排除を貫き、拘束を行わないための工夫を話し合う環境がある。家族に対しては、入居時に拘束リスクを説明し、行わないことへの同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを活用し、虐待防止についての勉強会や、セルフチェック表を使って職員間の価値観にずれがないかを振り返り、虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に制度を利用している方がおられるため、身近に感じて学ぶことができています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営者や管理者が十分に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望は、なんでもノートに記録して職員間で共有できるようにしている。またカンファレンス内でも共有し、ケアプランにも反映させている。	はなえくぼ扶桑便りを、3ヶ月毎に発行し、「気持ちに寄り添う対応を」のコラム発信を行い、家族に好評を得ている。また、SNSを活用したりリアルタイムでの情報発信が、家族の安心に繋がっている。家族との距離は近く、忌憚なく話し合える関係性にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞いている。また、個別面談を実施したり日常的に声かけし、一人ひとりの意見を聞くようにしている。	生産性向上委員会を設置し、法人全体で取り組む、職員のやる気スイッチとなっている。ミーティングでの協議、「なんでもノート」の活用、気づきの記録等、職員の意見表出の機会を保持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にて1年の個人目標を確認し、研修参加の機会を設けるなど、公私ともにいきいきと生活できるよう応援している。定時退社や有給休暇がとりやすい人員配置にも心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者からの推薦で外部の研修に参加する職員を選定している。また、ミーティングに参加し、理念の共有やケア実践が適切かの把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の職員に限られてはいるが、外部研修に参加し他事業所の方と交流したり、法人内の他事業所との交流機会を設けたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に出来るかぎり声をかけてお話を伺うようにしている。なかなか意見を伺うことはできないが、安心して頂けるよう穏やかな雰囲気を作れるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にお話を伺っている。そのうえで、施設としてできることを提示しご理解を頂いている。また、こまめに連絡を取り、ご家族の不安を軽減するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際に、できるだけ家族、本人の困りごとを聞き、必要なサービス等の情報をお伝えするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や壁紙など、一緒に作業することによって関係を作っている。掃除や洗濯なども一緒に行うようにしている。テレビや動画なども一緒に見ながら意見を交換したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子報告と、面会時に様子をお伝えしたりしながら、ケア方針の決定に参加していただいている。また、ご家族との楽しい時間を、少しでも記憶にとどめておけるよう、日常会話の中でもご家族の話題に触れる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出、ご友人の訪問、オンライン面会や携帯電話での交流が継続できるよう支援している	晩酌(ホームではノンアル)、カラオケ等の習慣の支援で、利用者の「楽しみ」を実現している。家族や親せき、友人・知人の面会には制限を設けず、本人が希望すれば、誰とでも合うことができる。家族外出、家族旅行等を楽しむ利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がタイミングを図って声かけするなどし、利用者様同士が楽しく会話したり、平穩に家事に参加できるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合はお手紙を送ったり、お話を伺ったりできた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接お話を伺い、職員間で共有したり、日常の様子や表情を見ながら意向の把握に努めている。何がご本人にとって良いことなのかを検討し実践できるようにしている。	毎月のケアカンファレンスで、職員意見や情報、気づき等を集約し、ポイントを押さえた話し合意を行っている。介護支援専門員が中心となり、集約した意見を基に、希望実現のための支援方法を話し合う体制がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に入浴時など、マンツーマンのゆっくりした時間が取れるときにご本人とこれまでのお話を伺うことができている。それを記録に残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の望む生活を尊重し、変化があった場合は、記録や申し送りで職員間で情報共有をし状況把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をお聞きし、ミーティング内でアセスメントを行い、それを元に介護計画を作成している。	家族に情報を知ってもらうのを目的とし、更新時、状態変化時にはサービス担当者会議を行い、本人と家族の意向に沿った、状態に合わせた支援方法を話し合っている。内容を職員間で共有し、集約した職員意見を併せ、介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも気づいたことは毎日しっかり記録している。 それを元に話し合い、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、できる範囲で対応している。必要な物品の購入や、個別の外出支援、病院への送迎などを家族に代わり行ったりもする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店の訪問理容を活用したり、音楽療法、訪問歯科などのサービスを積極的に利用している。また、隣の保育園児との交流も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科、訪問看護、訪問マッサージはご希望により施設で受けていただける。医療機関とは、本人、家族の要望に沿った診察や説明をしてもらえるよう協力関係を築いている。家族によるかかりつけ医の受診支援も行っている。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。訪問歯科、口腔ケアの支援もある。専門医等の受診は、原則家族対応をお願いしている。医療連携の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行い、医師と連携して適切な医療につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職に寄り添った対応をしてくれる訪問看護ステーションと契約をし、職員、利用者が安心して相談や助言を受けられる関係を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設からの情報提供は入院時に文書をお渡しできるように準備している。また入院中も相談員等との連絡を密にとり、施設への復帰がスムーズに行えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期の指針についてご説明し、意向確認を行っている。また、状況を見ながら、都度ご家族、訪問看護、医師と話し合い、方向性を話し合うことができている。また、それは変更もできることも伝えている。	入居契約時には、終末期支援に係わるホームの方針を説明し、同意を得ている。家族の意向に沿い、協力医医師を交えて、状態変化の都度に話し合いを重ね、その後の方針を決定している。家族の気持ちに寄り添う、ホームのできる限りの支援提供がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に、落ち着いて対応できるよう、観察項目と連絡先等を繰り返し伝えるようにしている。救命救急訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの避難訓練・消化訓練を行っている。避難場所や避難経路の確認を定期的に行っている	年2回の避難訓練を計画し、実施している。内1回は消防署の立ち合いがあり、避難方法、避難経路の指導を受けている。別に、救命救急、水害訓練を実施し、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況に合わせて声掛けができるようにしている。 尊重・プライバシーについては研修を行っている。	年間研修計画に沿い、ホーム内研修で、認知症に関わる知識を深めている。特に接遇の工夫に取り組み、利用者が不快な思いをしない対応を話し合い、利用者の尊重につなげている。また、OJTで、利用者の気持ちに寄り添う介護を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いを聞いたり、表情から気持ちを汲み取り、その思いを尊重したケアを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間など可能な限り希望に添えるようにしている。夜間にも軽食が提供できるように準備してある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、カチューシャの色と服の色をそろえたり、理容の際には希望の髪形を写真で伝えるなど、おしゃれを楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーや好き嫌いをお聞きして対応している。野菜の下ごしらえ、盛り付けなどのお手伝いをお願いしている。食後の食器拭きもお願い出来ている。	食前のオリジナルパタカラソング歌唱、ワンツースリー体操実施が、利用者の生活のメリハリに効果を表している。配食材活用の、3食手作りの家庭料理は、多彩なメニューで利用者に喜ばれている。行事食、特別食の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は個々に記録し把握できるようにしている。食べられるもの、飲んで頂ける物の情報も職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声かけでトイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄を支援している。自立の方にも自然な会話の中で排泄の有無の確認を行っている	トイレ排泄を基本に支援している。声掛け・誘導・介助等、利用者一人ひとりに合わせた最善の支援方法を話し合い、実践している。プライバシーに配慮した声掛けの工夫等、接遇の徹底にも余念がない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりとっていただくよう配慮している。排便の記録を行っており、下剤の内服支援、おなかのマッサージ、排便を促す体操、便座にゆっくり座っていただくなど、その方に合わせた対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングは業務の流れになってしまっているが、リラックスした状態で入浴していただけるよう配慮している。同性介助を希望される方には、同性介助にしたり、体力に合わせた入浴方法を検討し、その時々で対応を変化させている	ほぼ毎日の入浴を提供し、週に2回以上の入浴ができるように入浴管理を行っている。声掛けの工夫で、入浴が楽しみの時間となるように配慮している。職員との1対1のコミュニケーションの場として、入浴を心待ちにする利用者も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に合わせて休んで頂いている。室温にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての表を常に掲示している。変更があったときにはその理由も含めて職員に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に合わせて塗り絵や動画鑑賞ができるようにしている。料理のお手伝いや掃除、散歩などできることをできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力して頂き、外出して頂いている。地域のカフェに出かけたり、おやつを買いに出かけたりもしている	気候の良い時期は、近隣の散歩を楽しみ、喫茶外出や地域の社会資源を活用した外出、買い物等、外に出る機会を作っている。また、ウッドデッキの活用で外気浴を行い、気分転換ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うときは、施設の立替にて支払うが、値段と相談しながら買いたい物を買う機会は設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、オンライン面会をしたりしている。携帯電話の使い方を覚える支援をしたり、約束の時間に電話をつないだりして大切な人との交流を継続してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾れている環境づくりをしている。壁紙も利用者さんと一緒に作り、季節を感じて頂いている。日々の掃除で清潔に保てるようにしている。	廊下には、職員のコメントを添えた、日常や行事の際の写真を掲示し、利用者や家族、来訪者の目を楽しませている。日中はそれぞれが思い思いの場所でくつろぎ、気兼ねなく、楽しく過ごせるような職員の声掛け、働きかけがある。清潔保持は見事で、生活環境として何ら不安は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士で食事ができるようにしている。ベランダやリビングでおしゃべりしたりできる雰囲気作りもしている。苦手な人の目線から外れる席を用意して静かに過ごせるようにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や布団は使い慣れたもの。あるいは好きな物を購入して使用して頂いてる。動物の写真やご自分の作品を飾って頂いている。	入居時には馴染みの物品の持ち込みをお願いし、家族の協力で環境整備を行い、利用者が安心して暮らせるように配慮している。馴染みの物品、装飾品、家族の写真、アルバム等、思い思いに持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるように掲示してある。一人でも安全に歩けるよう、室内や廊下の通路確保も行っている。		